



第3走者
架空
(モデルは
~1710頃)

亀屋忠兵衛



近松門左衛門『冥途の飛脚』

人形淨瑠璃。1711年頃。近松は「世話物」という江戸時代の町人を扱うジャンルを得意としており、これは代表作の一つ。実話に基づく悲恋物語。



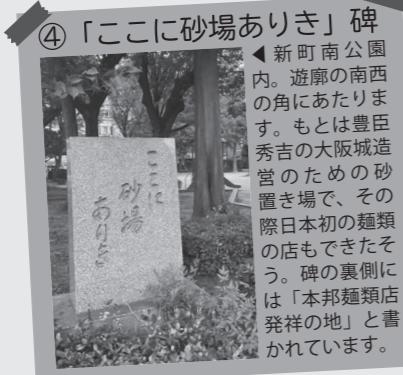
正直私はいろいろ突っ込みたくなりますが、忠兵衛ではなくそれをさせた社会構造が悪いということでしょう。



東京の吉原、京都の島原と並んで、日本三大遊廓と称された大阪の新町遊廓。今はビル街となっていますが、江戸時代の地名も多数残ります。飛脚であるからには忠兵衛は全部走ったはず。私もこのくらいなら走つてやるぜ！



△中之島在住の八右衛門の足取りも知りたくて、京阪中之島駅から出発。ここから①まで何気に遠かつたんですよ……。



最近コーヒー牛乳から牛乳に浮気します...

⇒ずっとずっとそのペニームでやってきたじゃないですか！ あなたのコーヒー牛乳との物語が！ ここで終わっていいのか!! (いやでも理解できなくはないかも；編)

はみだし
すてーじ

再現してみた！



忠兵衛になりきり、梅川の名前を唱えて頑張っている図

所要時間：20分（③まで）
運動不足の身にはまあまあきつかつたですが、愛しの人に会うためなら耐えられなくもない距離。走るプロである忠兵衛には朝飯前だったでしょう。ところで、米屋町で初めて「ヤア、これは」と遊廓に向かっていることに気づいたらしいですが遅すぎるよ忠兵衛。

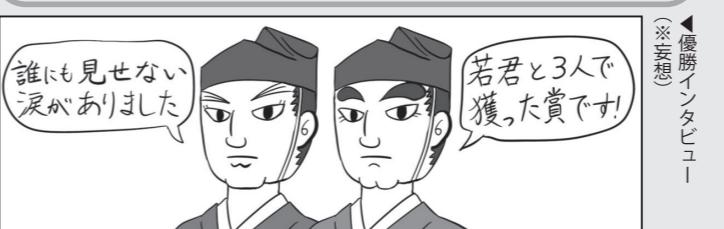
結果発表

健脚大賞

斎藤五・斎藤六

単純に、再現してみて断トツで疲れたので優勝でないと割に合わない。あの長距離に加えて、あんなに痛い裸足を自ら志望するなんて信じられません。主人の窮地に自分だけ楽はできないと思ったのか（主人は輿に乗っていますが……）、はたまた北条の指示に従うまいと思ったのか。その辺りを再現中に考えるつもりだったのですが、足が痛すぎてそれどころではありませんでした。

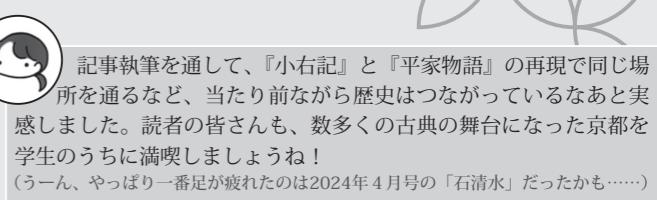
一時は平家が牛耳っていたはずの都を見ながらの道中は辛かつたことでしょう。

つぱしり賞
亀屋忠兵衛

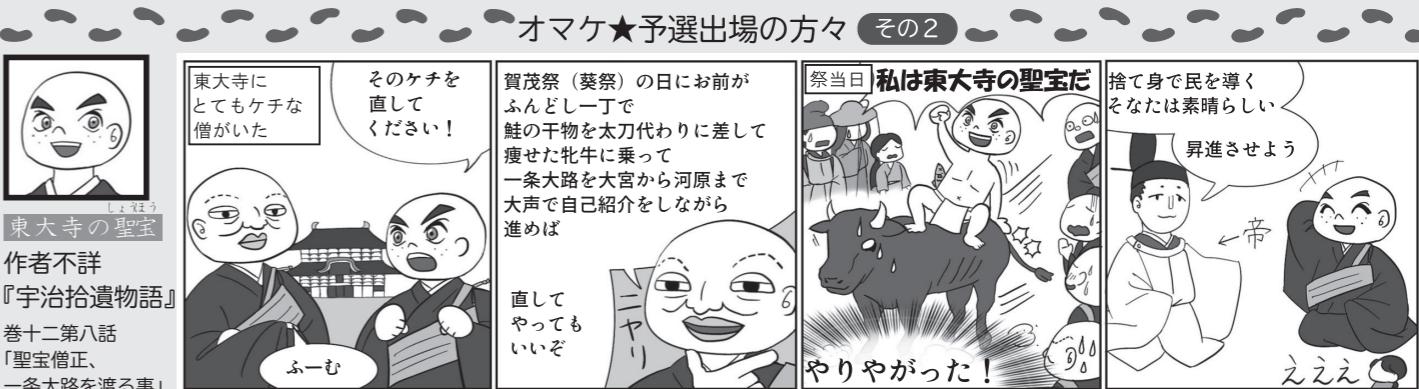
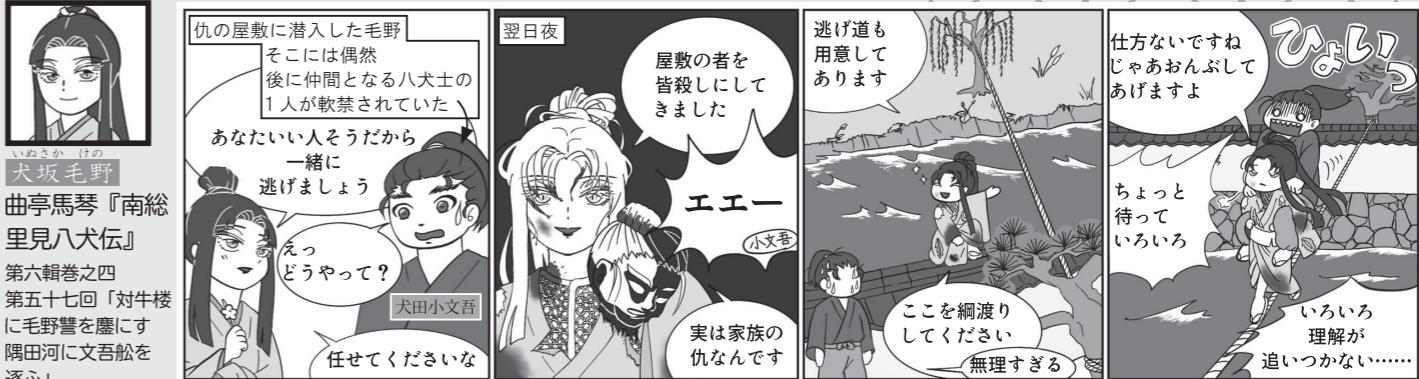
体が急くほどに心も急いて、心が急くほどに体も急くという相乗効果。気分が高揚した直後だから、大名家のお金を使ってしまったのも仕方がない！

健康習慣賞（ノミネート）
藤原実資

運動を継続するには、日常生活の中に強制的に組み込むのが一番。願わくばストイックに続けてほしかったところですが、懲りてしまったのが残念です。



(うーん、やっぱり一番足が疲れたのは2024年4月号の「石清水」だったかも……)

その2
オマケ★予選出場の方々その3
※この話の舞台は京阪ではありません。200年前に生み出されたとは思えない設定盛り盛りキャラです！
家族の仇を追っている女装の美少年で、強くて賢いんです！はみだし
すてーじ北川進特別教授ノーベル化学賞受賞おめでとうございます。後期からはちゃんと勉強しようと思います。
⇒ぜひ次なるノーベル賞を目指してください！(法・1 前髪長め)
(法学部で、ノーベル賞？ ……平和賞とか？；編)